症状に応じた登園基準について

なないろあーと保育園

厚生労働省の『保育所における感染症対策ガイドライン』に沿った登園基準について改めてお知らせ致します。 保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで 子どもたちが快適に生活できるよう、また、感染力のある期間等を考慮し、集団生活が可能な状態となってからの 登園となるようご配慮とご協力をお願いいたします。

(1) 発熱の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者の方へのご連絡
・ <u>24時間以内に38℃以上の熱が</u>	前日38℃を超える熱が出ていない	38℃以上の熱がある
<u>出ていた。</u>	・熱が37.5℃以下で元気があり、	(園では37.5℃以上で連絡します)
・24時間以内に解熱剤を使用して	機嫌がよく顔色がよい。	・元気がなく機嫌が悪い。
<u>いる。</u>	・食事や水分が摂れている。	・咳で眠れず目覚める。
・朝から37.5°Cを超えた熱とともに	・発熱を伴う発しんが出ていない。	・排尿回数がいつもより減っている
元気がなく機嫌が悪い。	・排尿の回数が減っていない。	・食欲がなく水分が摂れない。
・食欲がなく、朝食・水分が摂れて	・咳や鼻水を認めるが、増悪して	
いない。	いない。	※熱性けいれん既往児については
※38°C以上の発熱は感染症防止の為	・24時間以内に解熱剤を使って	37.3℃以上でご連絡、37.5℃以上で
<u>24時間は待機、38℃を超えていなく</u>	いない。	お迎えとなります。
ても、状態により24時間の待機を	・24時間以内に38℃以上の熱は	
お願いする場合があります。	出ていない。	
※至急受診が必要と考えられる場合		

38℃以上の発熱の有無に関わらず

- ・顔色が悪く苦しそうなとき
- ・小鼻がピクピクして呼吸が早いとき
- ・意識がはっきりしないとき

- ・不機嫌でぐったりしているとき
- ・けいれんが5分以上治まらないとき
- ・頻繁な嘔吐や下痢があるとき

(2) 下痢の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者の方へのご連絡
・24時間以内に2回以上の水様便	・感染のおそれがないと診断	・食事や水分を摂ると刺激で
がある。	されたとき。	下痢をする。
・食事や水分を摂ると下痢がある。	・24時間以内に2回以上の水様便が	・腹痛を伴う下痢がある。
・下痢に伴い体温が平熱より高い。	ない	・水様便が2回以上みられる。
・朝、排尿がない	・食事や水分を摂っても下痢が無い	
・顔色が悪くぐったりしている。	・発熱が伴わない。	
・機嫌が悪く元気がない	・排尿がある。	
※至急受診が必要と考えられる場合		

- ・下痢の他に機嫌が悪く食欲がなく発熱や嘔吐、腹痛を伴うとき
- ・脱水症状と思われるとき

☑下痢と一緒に嘔吐

☑唇や舌が乾いている

☑水分が摂れない

☑尿が半日以上出ない(量が少なく、色が濃い)

- ・米のとぎ汁のような水様便が数回出る
- ・血液や粘液、黒っぽい便のとき

(3)嘔吐の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者の方へのご連絡
・24時間以内に2回以上の嘔吐が	・感染のおそれがないと診断	・咳を伴わない嘔吐がある。
ある。	されたとき。	・元気がなく機嫌・顔色が悪い。
・嘔吐に伴い、いつもより体温	・24時間以内に2回以上の嘔吐が	・2回以上の嘔吐があり、水を
が高めである。	ない	飲んでも吐く。
・食欲がなく、水分も欲しがらない	・発熱が見られない。	・吐き気が止まらない。
・機嫌が悪く元気がない。	・水分摂取が出来、食欲がある。	・お腹を痛がる。
・顔色が悪くぐったりしている。	・機嫌が良く元気である。	・下痢を伴う。
	・顔色が良い	
	・いつもと同じ量の排尿がある。	

※至急受診が必要と考えられる場合

- ・嘔吐の回数が多く顔色が悪いとき
- ・水分が摂取できないとき
- ・頻回の下痢や血液の混じった便が出たとき
- ・元気がなく、ぐったりしているとき
- ・血液やコーヒーのかすのような物を吐いたとき
- ・発熱、腹痛の症状があるとき
- ☑尿が半日以上でない ☑落ちくぼんで見える目 ☑唇や舌が乾いている ☑張りのない皮膚や陰嚢

(4) 咳の場合

保護者の方へのご連絡	※至急受診が必要と考えられる場合
・咳があり眠れないとき	・ゼイゼイ、ヒューヒュー音がして
・ゼイゼイ音、ヒューヒュー音があるとき	苦しそうなとき
・少し動いただけでも咳が出るとき	・犬の遠吠えのような咳が出るとき
・咳とともに嘔吐が数回あるとき	・保育中に発熱し、息遣いが荒くなったとき
	・顔色が悪くぐったりしている
	・水分が摂れないとき

(5)発疹の場合

※至急受診が必要と考えられる場合

・発疹が時間とともに増えたとき

発疹の状況から、以下の感染症の可能性を念頭に置き対応します。

- ☑風邪のような症状を伴う発熱後、一旦熱がやや下がった後に再度発熱し、赤い発疹が 全身に広がった (麻疹)
- ☑微熱程度の熱が出た後に、手の平・足の裏・口の中に水泡が出た(**手足口病**)
- ※膝やおしりに発疹が出ることもある
- 図38°C以上の熱が3~4日続き下がった後、全身に赤い発疹が出た(**突発性発疹**)
- ☑発熱と同時に発疹が出た(風疹・溶連菌感染症)
- ☑微熱と同時に両頬にりんごのような紅斑が出た(**伝染性紅斑**)
- ☑水疱状の発疹が出た (**水痘**) ※発熱やかゆみには個人差がある
- ※食物摂取後に発疹が出現し、その後腹痛や嘔吐などの消化器症状や、息苦しさなどの呼吸器症状が出現してきた場合は、食物アレルギーによるアナフィラキシーの可能性があり、至急受診が必要になります。
- ※その他、口内炎がひどく食事や水分を摂れない、かゆみが強く手で搔いてしまう、 滲出液が多く、他児への感染のおそれがある場合は登園を控えて頂くようお願いします。